

## 神宮に祈られる大御心 ～伊勢神宮に関する御製を読む～

敬天塾 平井仁子

### 一、本年 宮中歌会始

御 製

天空にかがやく 明星眺めつ 新たなる年の平安祈る

召人 ピーター・J・マクミランさん

御 杣山明るむ天に 杣人の声ひびきたり「一本寝るぞ」

### 二、神宮と本居宣長

たなつもの百の木草も天照す日の大神の恵みえてこそ

朝宵に物くふごとに豊受の神の恵みを思へ世人の人

### 三、鎌倉時代の御製

第八十二代 後鳥羽天皇 『歴代天皇の御製集』百四十四頁

神祇（建仁元年一一二〇一）

みもすそや  神風の心にふかぬときのまぞなき

（内宮御百首）

ひさかたの空ゆくかぜに雲きえてつきかげさむし宮河のあき

（外宮御百首）

☆世のために  心ともあらぶる神は照し見るらむ

（弘安御百首）

※以下、☆マークは『歴代天皇の御製集』にも掲載されている御製です。

第九十二代 伏見天皇 『歴代天皇の御製集』百六十八頁

河月といへるところを

五十鈴川絶えぬ流れの底きよみ

澄める月かげ

（続千載和歌集）

第九十五代 花園天皇 『歴代天皇の御製集』百七十四頁

神祇を

にみだれしちりもをさまりぬ天照らす日のあきらけき世は

（風雅集）

『誠太子書』

太子長 二 於宮人之手 一、 未レ知 二 民之急 一。

常 衣 二 綺羅服飾 一、 無レ思 二 織紡之勞役 一。

鎮 飽 二 稲梁之珍膳 一、 未レ辨 二 稼穡之艱難 一。  
於レ國曾無二尺寸之功 一、 於レ民豈有二毫釐之惠 一乎。  
只以レ謂二先皇之餘烈 一、 猥欲レ期 二 萬機之重任 一。

無レ德而謬 託 二 王侯之上 一、  
無レ功而苟 莅 二 庶民之間 一。

豈不二自慙一乎。（中略）

ゆゑ二おもヒテ まなび まなビテ おもヒ せいつうシ けいしょニ  
ひニかへりミバ わガ みヲ すなはチあラン ところ にル

故思而學、々而思、精通二經書一、  
日省二吾躬一、則有レ所レ似矣。

四、室町時代（南北朝・応仁の乱）の御製

第一百代 後小松天皇 『歴代天皇の御製集』百九十八頁

社頭祝言

☆日とてらし  
この國を内外の神のまもるひさし

（後小松院御百首）

第一百二代 後花園天皇 『歴代天皇の御製集』二百頁

伊勢（享徳元年—一四五二）

さらに今つくる内外の宮ばしら  
代々にたちや帰らむ

（後花園天皇御製和歌集）

賜二足利義政一

ざんみんあらそヒテ とるしゅやうノ び  
殘民爭採首陽薇

しょしょひらキテ ろヲ とざス ちくひヲ

詩興吟酸春二月

まんじやうノこうりよく ためニカ たがこユル

第一百三代 後土御門天皇 『歴代天皇の御製集』二百八頁

伊勢（明応四年—一四九五）

☆にざりゆく世を思ふにも五十鈴川  
と神をなほたのむかな

（御土御門院御集拾遺）

祝（明応八年——四九九）

☆神代よりいまにたえせず伝へおく三種のたから

みくさ

（御土御門院五十首和歌）

## 五、戦国時代の御製

第百五代 後奈良天皇 『歴代天皇の御製集』二百十頁

神祇（大永元年——五二一）

宮柱朽ちぬ   をたておきて末の世までのあとをたれけむ

神祇（亨禄三年——五三〇）

☆いそのかみふるき茅萱の宮柱たてかふる世に

（後奈良院御製集）

今茲 天下大 瘟 万民多 阖 二於死亡 一。

朕為 二 民父母一、德 不 能 覆 、甚 自 痛 焉。

窃 写 二般若、心經一卷於金字 一、（中略）

庶幾 應 為 二 疾病之妙藥 一。

（参考）『後奈良院御撰何會』

ぎよせん ななぞ

①上は上にあり下は下にあり

②上をみれば下にあり下をみれば上にあり、母の腹を通りて子のかたにあり

（お知らせ）

当資料の和歌などの現代語訳は

以下のサイト（「和歌ナビ」）に掲載いたします。



<https://waka31.jp>